

デンデンガツサリ

—五穀豊穡と子孫繁栄を願う—

山中八幡宮で「デンデンガツサリ」という珍しい名前の祭りが毎年一月三日に行われます。五穀豊穡と子孫繁栄を願うお田植え神事で、田楽の流れをくむ祭りです。

田楽とは、平安時代中期に成長した日本の伝統芸能です。田植えの前に豊作を祈る田遊びから発達したと言われていいます。それが料理の田楽と結びついたのは、串の上に白い豆腐が乗っている田楽料理が、高足（足場の付いた一本の棒に乗り飛び跳ねる芸）を行う田楽法師に似ているからだと言われています。

山中八幡宮のデンデンガツサリは、太鼓を田に見立てて「前歌」「後歌」「せりふ」「所作」の四部構成で進められます。「前歌」では稲の品種、蒔き、苗取り、草取り、稲取り、田植女、化粧を歌い、「後歌」では伊勢踊りが歌われます。そして「せりふ」では稲の豊作を賞し、天候を評し、氏子中の地名を読み上げ、最後に「所作」で田ごね、稲刈り、稲穂の運搬などの動作を表現します。

祭りのクライマックスには牛が登場します。牛役の人は角をかたどった綱を頭



大きな鏡餅を背負う牛役の男性

に着けています。四つん這いになり、稲穂を象徴した大きな鏡餅を背に乗せて、収穫した稲を運搬するように太鼓の周りを回ります。やがて牛が倒れ、人々は「丈夫な牛でも倒れるほどの豊作だ」と言って喜び合います。最後に、鏡餅を切り餅にして参加者に投げて振る舞い、祭りのすべてが終了します。

デンデンガツサリに登場する牛は、他の地域のように「代掻き」や「牛ほめ」の歌詞には登場せずに、「運搬」や「豊作」の象徴として登場します。とても珍しく、貴重な例と言えます。これも、後世に伝えたい「ふるさとの心」と言えるのではないのでしょうか。

図書館交流プラザ岡崎むかし館主任専門員

野本 欽也

子どもの脱腸

脱腸は、陰嚢や太ももの付け根あたりが膨らむ病気です。正式には「そけいヘルニア」といいますが、片側だけ膨らむことが多いのですが、両側とも膨らむこともあります。膨らみの原因は、お腹の中の腸が皮膚の下まで飛び出したためです。飛び出した腸を包んでいる袋をヘルニア嚢といい、腸はその中を出たり入ったりします。

おかしいなと思ったら、怖がらずによく観察してください。また、診察時に医師に見せるために、携帯電話などで写真を撮っておくのもよいでしょう。腫れがブヨブヨしているのは皮膚の下に軟らかい腸があるからです。触っている間に引っ込んでしまうこともあります。通常、痛みは無く、赤みも見られません。

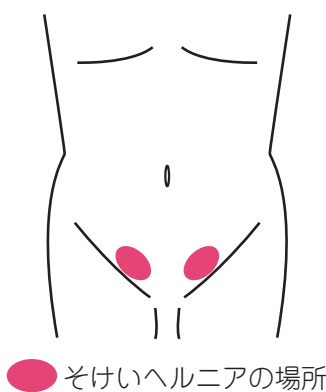
脱腸とよく似た病気に陰嚢水腫があります。陰嚢が膨らむことが多いので、このように呼ばれています。陰嚢水腫は、飛び出したヘルニア嚢の中に水が溜まる病気です。脱腸と違い、腸が入り込むほどヘルニア嚢が太くないため、水

「おかしな病気の話」



が溜まっていきます。よく見ると腫れている陰嚢が少し青くなっています。自覚症状としては痛くも痒くもありませんが、脱腸と違って腫れが引っ込んでしまうことはありません。

これらの病気がなと思ったら、かかりつけの小児科を受診することをお勧めします。お子さんの機嫌が良ければ慌てる必要はありません。最終的に手術するかどうかは、小児外科にご相談ください。



岡崎市民病院 小児外科

統括部長 伊藤 不二男

市民病院を受診する際は「かかりつけ医」の紹介状をお持ちください。